

日刊 動労千葉

80.12.6
No. 600

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五〜六(公衆)〇三三(22)七二〇七

へ塚三里すあ

三里塚・ジェット闘争貫徹／「国鉄35万人体制」粉碎！

81ジェット燃料貨車輸送延長阻止、二期着工粉碎。

いよいよ八一年三月ジェット燃料貨車輸送延長阻止、二期着工粉碎、空港廃港にむかって総力決起する時がきた。政府は十二月二日、これまでの閣議決定(暫定貨車輸送は三年間)を反古にして、八三年十二月までの期限延長を閣議決定を行った。この八一年三月期限延長の閣議決定の中に、政府の三里塚空港政策の破綻とパイプライン建設の破綻をみる事ができるし、同時に閣議決定を反古にするというデタラメな不正義をもって、強権的にジェット延長・二期工事完成を企図する絶対許すことのできない攻撃として把え、三里塚芝山連合空港反対同盟主催の12・7動労千葉支援・二期工事阻止、空港廃港現地総決起集会へ全力で結集しよう。

「81・3」攻撃の強まりと 動労千葉を軸に広がる闘争陣形

わが動労千葉の定期大会直前における、ジェット燃料貨車輸送ルート沿線住民の反対の声を無視した川上県知事の「期限延長受諾」声明、そして十二月二日の「閣議決定」等々、「八一年三月」をめぐる政府・空港公団の攻撃が強まっている。また、国鉄においても、すでに「55・10ダイ改」時点において燃料輸送要員＝機関士生み出しのための合理化提案、さらに、乗務員運用合理化11月1日強行実施策動など動労「本部」反動分子と一体となった、わが動労千葉つぶし＝組織破壊攻撃が強められてきたのであった。

同時に、反対同盟に対しては、「成田用水」「農業振興策」「千代田農協問題」など同盟分析・破壊攻撃が、つぎつぎとかけられてきたのである。こうして今日、「81・3」をめぐる情勢は日に日に緊迫したものとなりつつある。

しかし、われわれは、政府・国鉄当局さらにはこれと連動した「本部」反動分子の動労千葉破壊攻撃に対して「55・10ダイ改」闘争をはじめ、十月総行動を精力的に闘い抜き、なによりも乗務員運用合理化十一月強行攻撃と真向から対決し、当局・「本部」反動分子の意図を完全に粉碎しつつ闘い抜いてきた。

この闘いの成果と広がりには、中央段階では十二月三日、社会党第四十五回定期全国大会で「成田

計報

鶴岡甚二郎君(千葉運転区支部・電運士33才)は、12月4日21時頃、帰宅途中、千葉市天台一丁目の路上で不慮の交通事故のため逝去されました。ここに、謹んで哀悼の意を表します。
尚、通夜 12月6日18時〜
告別式 12月7日13時〜
天台国鉄宿舍集会所で行われます。

空港二期工事阻止、ジェット燃料貨車輸送延長反対」が決議され、地域においても千葉地区労第三回定期大会で「ジェット燃料貨車輸送延長とパイプライン建設に反対する」決議が決定されている。さらに、国労は第一三〇回中央委員会で「スト損賠」攻撃に対し非協力闘争として燃料輸送延長問題を取り組むことを決定したという。

動労千葉の真価をかけて 81・3闘争へ決起しよう！

国鉄三十五万人体制＝乗務員運用合理化粉碎闘争を頂点とするこの間の闘いを勝利的に闘い抜いた力をもって、われわれは、第四回定期大会の圧倒的成功をかきりとして、いよいよ81・3闘争に一三〇組合員うって一丸となって総決起する時がきた。

三里塚・ジェット闘争こそは、今日の鈴木内閣・支配階級の戦争と反動攻撃と真向から対決する闘いであると同時に、ますます産報化・右翼化を深める日本労働運動の中にある、闘う労働者人民の共通の闘争課題として、激動の80年代を切りひらく闘いでもあるのだ。

今こそ、われわれは、権力・国鉄当局・動労「本部」反動分子をはじめとする様々な反動攻撃を粉碎しつつ、動労千葉結成の理念と真価をかけて労働連帯の旗を掲げ、全国のさらに広げんな支援・連帯をつくり出し、81・3闘争に総決起しなければならぬ。

81・3闘争の第一歩である12・7三里塚現地集会にわれわれは、全支部・全職場の根こそぎ動員をかちとり総結集しよう。
12月7日、10時、成田運転区へ！

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！